

あなたも AED 応急手当 講習会に参加しませんか?

使った



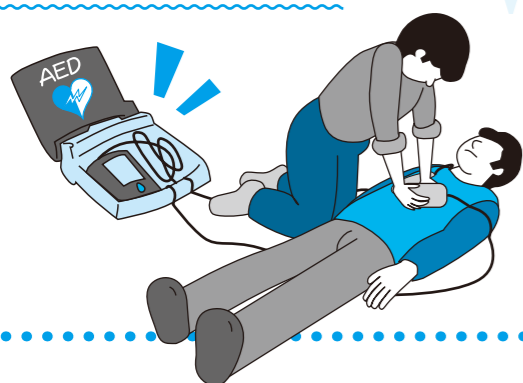
当消防本部では、「いつでも、どこでも、誰でも効果的な応急手当を行うことのできる社会」の実現をスローガンとして、救命率向上のため各種応急手当講習会を開催し、普及活動に努めています。

そこで、講習会で使用する資機材の充実強化を図り、みなさんにAED及び心肺蘇生法に関する知識と技術を高めて頂くために、講習会で使用する「AEDトレーナー」を平成24年度コミュニティ助成事業において、宝くじの助成金で整備を行いました。

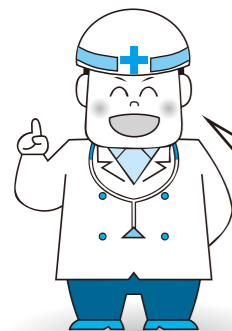


突然の心停止傷病者が社会復帰された割合を統計で見ると、救急隊が到着するまでの間に住民がAEDによる電気ショックを行った場合は、行われなかった場合に比べて約2倍(38.2%)となっています。

救命の現場に居合わせた住民によって心肺蘇生が行われ、AEDが使用されることによって、1人でも多くの尊い命を救う事ができるよう、みなさんも講習会に参加しましょう。



たまには のろのろ 救急車?



皆さんのなかには「救急車は、けが人や病人を、とにかく急いで病院へ搬送するもの。」と思っている方もいらっしゃると思います。

でも、皆さんが道路を車で走っていて、のろのろ運転の救急車に出くわした事はないでしょうか?

答えは、救急車で病院へ向かう際には、必ずしも急ぐ必要はなく、スピードよりも振動や揺れが少ない事が重要な場面があるという事です。

例えば、骨折をされていて、容体が急変する可能性が低いときなどは、道路の小さなデコボコも、激痛につながることもあるので、ご本人の痛みを少しでも軽減するために、出来るだけ振動や揺れが少なくなるように配慮しながら搬送します。



のろのろ運転

＜も膜下出血が疑われる場合、急ぐあまり振動や揺れが多くなり、脳血管の再破裂が起これば、致命的な状態を招く事になりかねません。

他にも振動や揺れを出来るだけ防ぎ、安静を心掛ける場面が多々あり、日々の出勤や道路調査で、各市町内の道路状況の把握に努めています。



以上、のろのろ運転の事ばかり書きましたが、急がなければならない場面では、もちろんスピードを出す事もあります。(時速80キロまで)救急隊は、搬送される方や救急車に同乗される方の安全・安心を第一と考え、その時の状況に応じて対応しており、皆様のご理解とご協力をお願いします。

キッズ防災塾 を開催



有明広域消防本部では平成24年8月1日に「キッズ防災塾」を開催しました。これは消防や防災について学ぶ機会を設け、災害発生時に身の安全を守る方法や助け合うことの大切さ等を学んでもらおうと当消防本部が初めて企画したものです。当日は、荒尾・玉名地域の5つの小学校の小学5、6年生21名が参加し、消火器取扱訓練、非常食体験、はしご車体験等を行いました。東日本大震災では子どもへの防災教育の重要性が再認識されました。今後もこのような企画等を行い、地域の防災力向上に努めていきたいと思ひます。



みんな真剣に勉強中!

こんな勉強をしました

- ・地震や火事についての勉強
- ・119番通報の仕方
- ・消火器取扱訓練
- ・非常食体験
- ・救急法
- ・煙体験
- ・はしご車体験

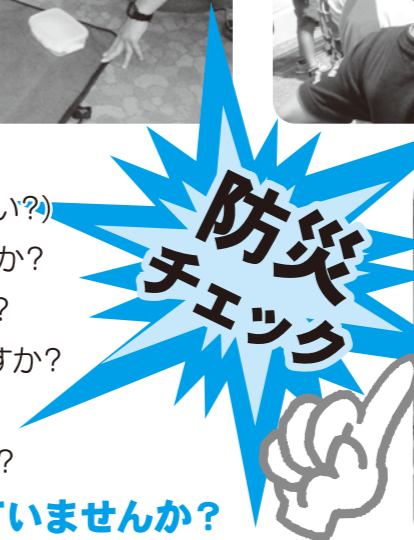


頑張ってるぞ!



消火器使えるかな?

- 消火器はありますか?(古くない?)
- 住宅用火災警報器はありますか?
- 家具等は固定してありますか?
- 非常持出品、備蓄品はありますか?
- 避難所を知っていますか?
- 救急法を身につけていますか?
- 自分は大丈夫と思っていないですか?**



緊張してきた~